

上賀茂神社・上賀茂地区の地域史研究

藤本 仁文

平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業として「上賀茂神社所蔵史料を用いた洛北地域の歴史・文化に関する研究」「上賀茂神社・上賀茂地区の文化遺産の再発見とその活用」（代表：藤本仁文）を実施した。

上賀茂神社所蔵史料を用いた文献史学の研究を中心にして、文化遺産学的視角からの調査を加え、さらに授業や歴史学科学生有志で行うデザイン研修等と連携して行った。その成果に関しては、3 月末に研究報告書『上賀茂神社・上賀茂地域の地域史研究』を刊行し、さらに 3 月 14 日には京都府立総合資料館・京都府立大学文学部歴史学科共催「京都府立総合資料館寺子屋講座 京都の歴史を歩こう！」にて一般市民にも広く伝えていくことにした。

研究体制としては、本学教員・大学院生・学生を中心にしつつ、本年度は土橋誠氏（京都府立総合資料館歴史資料課専門幹）・山本宗尚氏（財団法人賀茂県主同族会理事）が研究協力者として加わり、総合資料館所蔵の関係資料に関する協力、あるいは実際の神事・行事の担い手としての視点から様々な意見・アドバイスをお願いした。

1. 古文書の調査と研究

研究の中心となる文献史学の観点から、上賀茂神社所蔵の史料を閲覧・撮影し、その分析を行った。同社所蔵史料はよく知られているものの、近世史研究者によって体系的に使用されることがない。平成 25 年度には、鈴木史織（本学博士前期課程修了生）、山崎祐紀子（本学博士前期課程 1 回生）が上賀茂神社所蔵の史料を使用してそれぞれ修士論文、卒業論文を作成し、その成果の一部を研究報告書に掲載する予定である。このほか土橋氏の研究成果、山本氏による先行研究に関する参考文献の一覧も掲載している。

2. 文化遺産学的視角からの調査

平成 25 年度は、上賀茂神社より画像提供を、土橋氏より動画の提供を受けて上賀茂社・賀茂競馬について視覚的な分析を行った。またこれをもとにして、平成 25 年度京都府立大学地域貢献型特別研究「現代版『京童』へのアプローチ「国際京都学」研究における京都府立総合資料館所蔵古典籍活用の可能性一」（研究代表者：藤原英城）と連携しながら、上杉和央准教授・東昇准教授が AR を作成し、上賀茂社・賀茂競馬に関する解説をスマートフォン・タブレットで閲覧できる状態にした。

平成 26 年度は、大学院生を対象に開講している「地域史特殊研究 I」の受講生 8 名を中心に、5 月朔日・5 日に行われた足汰式・菖蒲根合儀・競馬会を見学し調査を行った（写真 1）。当日は土橋氏の解説を得ながら調査を行い、後日山本氏には乗戻としての視点から、当日の様



写真 1



写真 2

子に関して説明を受けた。また 5 月 9 日「生活文化論特論」（担当：生命環境科学研究科松田法子講師）の上賀茂地区の現地調査に同行して、景観史などの観点・成果と文献史学からの成果を相互に組み合わせながら授業を行った。

報告書では、歴史地理学の観点から長谷川奨悟（日本学術振興会特別研究員・本学非常勤講師）が、『都百景』「社寺境内外区別原図」について G I S 分析を行い、また考古学の観点から野田優人（本学博士後期課程 1 回生）が、唐菓子に関する基礎研究を行っている。

3. デザイン研修との連携

「京都府立総合資料館寺子屋講座 2015 京都の歴史を歩こう！」を準備する歴史学科デザイン研修に出席して、研究調査の成果を学生と共有しながら企画の準備を進めた。例年文化遺産学コースの教員がデザイン研修の指導にあっているが、平成 26 年度は新たに藤本も加わって本研究で得られた成果を組み込みながら行うことになった。本研修の特色は学生が直接地域貢献に参加するという点にあり、その準備を各自が一年かけて行った。この各自の成果を持ち寄っての報告会・現地での聞き取りを、5 月 29 日・7 月 3 日・8 月 7 日・11 月 10 日・11 月 28 日・12 月 19 日・12 月 25 日に行った。また 2 月 10 日・2 月 24 日にプレ遠足を行い（写真 2）、3 月 14 日の本番に向けて改善点などの話し合いを行った。この本デザイン研修に関する記録に関しては、上原駿一・豊田祥子（本学歴史学科 3 回生）が報告書に執筆している。

以上の研究調査の成果については、平成 27 年 3 月に『上賀茂神社・上賀茂地区の地域史研究』⁽¹⁾として公刊する予定であり、詳細はその報告を参照いただきたい。

【註】

(1) 藤本仁文編『上賀茂神社・上賀茂地区の地域史研究』、2015 年